

日本海海戦を
転機とした男たち

9

片岡七郎 現場主義に 徹した人格者が果たした役割

「敵艦隊見ゆ、二〇三地点」

明治三十八年（一九〇五）五月二十七日午前四時四十五分、哨戒中の仮装巡洋艦「信濃丸」からの無線電信に、連合艦隊は沸きました。対馬海峡で迎え撃とうとしていたバルチック艦隊を、ついに捕捉したからです。

隷下の「信濃丸」からの報を誰よりも喜んだのは、第三艦隊司令長官の片岡七郎だったのではないのでしょうか。

片岡は薩摩藩の出身。同郷の海軍大臣・山本権兵衛の一つ年下で、温厚かつ清廉潔白な人物でありました。また、伏見宮博恭王・山階宮菊麿王両殿下のドイツ留学に随行していた経験から、独語、仏語、英語も堪能で、海軍随一の語学力を誇りました。

現場を尊重する片岡は、戦艦「八島」の艦長時代、航海に出た際は就寝時も軍服を脱がず、長椅子を使用して臨戦態勢を崩しませんでした。その姿勢によって、乗組員からも尊敬の念を抱かれていたといえます。

日露戦争時、片岡は第三艦隊の司令長官に就任。第三艦隊に与えられた任務は、朝鮮沿岸の警備や、上陸部

片岡七郎（国立国会図書館蔵）

隊の司令長官に就任。第三艦隊に与えられた任務は、朝鮮沿岸の警備や、上陸部

隊の護衛、支援などでした。

しかしのちに、第三艦隊は連合艦隊に編入されて片岡独自の運用ができなくなり、さらには最新鋭の巡洋艦「春日」

「日進」が第一艦隊に移されます。老朽艦のみで任務に

当たらざるを得ない状況となり、海軍内では「第二艦隊の上村彦之丞長官なら激昂している」とまで言われますが、片岡は冷静に受け入れました。

「信濃丸」が敵艦隊を発見した後、第三艦隊の巡洋艦「和泉」がバルチック艦隊と併走して、その情報を逐一連合艦隊へ伝達。それにより連合艦隊司令長官の東郷平八郎は敵情を把握でき、迅速に戦闘準備に入れたのです。

日本海海戦の勝利後、片岡は南樺太の占領にも貢献。その功績を称え、海軍内では北知床岬を「片岡岬」と呼ぶようになります。

晩年、片岡は高等軍法会議の判士長として、シーメンス事件に関与した山本権兵衛を裁く立場となりますが、その際も、同郷だからと肩入れすることは一切なく冷静に対処したといえます。

生涯にわたり公正を貫いた人格者だからこそ、多くの部下から信頼された将官でした。



日本海海戦で旗艦として戦った戦艦「三笠」は、大正15年（1926）に記念艦となり、現在の位置に固定されました。

「三笠」入口で「本誌を見た」と言われた方は入艦料を100円値引きします（一般のみ）。

員数	区分	一般	シニア	高校生
1名		600円	500円	300円
20名以上		500円	500円	200円

入艦料

観覧時間

4月～9月	3月・10月	11月～2月
9:00～17:30	9:00～17:00	9:00～16:30



世界三大記念艦

〒238-0003 神奈川県横浜須賀野稲岡町 82-19

「三笠」

●京浜急行「横須賀中央駅」から徒歩15分 ●JR「横須賀駅」から三笠循環バスで「三笠公園」下車

TEL.046-822-5225 <https://www.kinenkan-mikasa.or.jp/>船の上の
歴史ミュージアム